

TOPICS

●第6回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会

100校205名の教習指導員が指導力の向上をめざし、運転技術を競う



四輪「フィギア」

全国から過去最多の教習指導員が出場

6月5日、6日の2日間、鈴鹿サーキット交通教育センターで、「第6回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が開催された。この大会は自動車教習所教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に、2001年より毎年開催されている。今年も全国32都府県の100校の教習所から、過去最多となる205名(二輪114名、四輪91名)が参加した。

開会式では、大会会長である吉見幹雄・本田技研工業(株)専務取締役・安全運転普及本部部長が挨拶。「事故のない交通社会の実現のためには、確かな運転技術に加え、ルール・マナーを守る運転者づくりが必要と考えていま



全国から過去最多の205名が参加

す。そのためには、初心者に対し最初に交通教育を行う、教習指導員の役割が極めて重要と認識しています。また、教習所は、運転免許取得者や地域社会の児童から高齢者まで、幅広く交通社会に参加する方を対象にした、地域の交通教育センターとしての役割もあります。教習指導員の皆様には、高いレベルの確かな運転技術に支えられた指導力が求められています。この大会は、指導力の向上と、全国から集う教習所の皆様の交流の場として開催させていただいております」と述べた。

大会1日目は、午前9時30分から二輪の「ブレーキング」、四輪の「フィギア」、午後12時30分より二輪は「パイロンスラローム」「コーススラローム」、四輪は「ブレーキング回避」「縦列駐車/庫車入れ」が行われた。2日目は午前8時50分より二輪「一本橋」、四輪「コーススラローム」が行われ、運転技術を競い合った。

※フィギア=スムーズな操作・走行かつ正確な車両誘導技術を競う種目。横7m縦7mのボックス内に設けた1カ所の枠内に方向転換しながら指定された後輪を入れ、タイムを競う



二輪「一本橋」

最後まで緊張感を持って競技に取り組む選手

今大会では公平性をさらに高めるために、各競技の配点バランスが見直され、1つの競技で失敗しても他の競技でよい成績を取れば、総合成績で再び上位の成績がねえらるようになった。また、二輪部門・四輪部門合わせて8名の女性教習指導員も参加し、その活躍が目立った。

大会2日目の競技がすべて終了すると、二輪車の運転姿勢と乗降車指導方法のデモンストレーションが行われた。鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターがHondaのスーパーカブ(50cc・原付)やフォルツァ(250cc・大型スクーター)などを例に、車種に応じた正しい乗車姿勢と乗降車の仕方を実演。ライダーに教習時に学んだ基本を、いかに思い出してもらうかをポイントに説明した。

この後、午後1時から表彰式・閉会式が始ま

り、二輪、四輪各4種目の上位6名、および二輪、四輪部門の総合上位6名が表彰された。

二輪部門総合1位のドリームモータースクール須坂校(長野県)の木内俊児さんは、「今回はタイムなどの数字ではなく、安全で正確な運転を意識して練習し、競技に取り組んだのが良かったと思います。大会を通じて学んだ安全性と正確性の大切さを、教習生にも伝えていきたい」と話す。

四輪部門総合1位の法隆寺自動車教習所(奈良県)の岡田晴行さんは、「今回が3回目の出場です。種目別での上位入賞はありましたが、総合では初めての1位入賞なので、とても嬉しいです。総合で入賞するためには、全種目でコンスタントに成績を残さなければなりません。幅広く安全運転技術を高めたことが、結果につながったと思います」と喜びを語った。

最後に大会運営委員長である河野光彦・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が「選手の皆様が指導力向上のために日頃から技を磨き、力を蓄え、気持ちを高めて大会に臨んでいることを強く感じました。今後も改善をしながら、より多くの選手が最後まで力を出し切って良い意味で緊張感を持って競技に臨めるように、より良い大会をめざしたい」と、2日間におよぶ大会を締めくくった。



大会2日目終了後に行われた二輪車の運転姿勢と乗降車指導方法のデモンストレーション

大会1日目終了後には鈴鹿サーキットにてレーシングコース体験走行が行われた

全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会への期待

教習指導員の好奇心と自ら学ぶ姿勢を育む

湯田自動車学校(山口県山口市) 技能課主任 高木 毅さん

当校は今回が大会初参加です。出場が決まり、教習指導員みんなのチャレンジ意識に良い影響を受けました。また、他の選手の活躍を見ることで、普段の教習の良い刺激になったと思います。自動車学校は、安全を教えることが第一です。それだけでなく、若者が短期間でも利用する学校なので、人生の先輩として、生き方の見本となる場所でありたいし、そのような学校をめざしています。そのために、自分たち教習指導員が自己実現できる場であるべきだと感じます。そして、教習に来る人たちにも、はつらつとした態度を見せたいと考えています。好奇心や、自ら学ぶ姿勢が教習指導員には必要です。この大会はそのきっかけになると思います。

本物の教習指導員とは何か 最高の人物像を求めて

ラヴィドライビングスクール蒲田(東京都大田区) 常務取締役 鈴木雄二さん

当校の出場選手が今までどう通常業務に創意工夫をして過ごしてきたか、または、自分が指導員として安全運転の技術・指導能力の再確認・再認識を目的に、若い世代の従業員のやる気と将来に向けてのモチベーションの維持向上及びスキルアップのため競技会に参加しました。若い世代の指導員が、日々頭の中で格闘する現代社会とのずれ、交通安全の認識の違い、他サービス業界とのギャップ、未だ古い体質の自分本意の考えから脱却できない指導員など。さまざまな問題を抱えながら皆仕事をしているので、全国から集まる優秀な仲間との交流は、これからの励みとなり刺激となることを期待します。



四輪「コーススラローム」 二輪「コーススラローム」 二輪「ブレーキング」 二輪「パイロンスラローム」 四輪「縦列駐車/庫車入れ」 四輪「ブレーキング回避」

- 企業(二輪) 二輪 二輪 二輪... (List of participating companies and their details)

- 活動短信 ●交通教育センター 6月... (Short messages from various centers)